

令和7年度学校推薦型選抜最終選考小論文課題

東京大学教養学部教養学科

受験番号

氏名

本冊子は、指示があるまで開かないこと。

課題開始後、表紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。

解答用紙は、両面1枚のみとする。

草稿用紙としてB4用紙2枚を使用してよい。

本冊子は、終了後に回収する。持ち帰らないこと。

本冊子

表紙 1枚

白紙 1枚

課題 4枚

小論文課題（教養学科）

次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

（一）傍線部①に「」とあるが、これはどのようなパラドックス（逆説）を指すか。七行以内でまとめて説明しなさい。

（二）傍線部②に「」とあるが、あなたはどのように考えるか。本文で言及されているものの以外の具体的な例を挙げて述べなさい。

著作権の都合上削除

著作権の都合上削除

著作権の都合上削除

著作権の都合上削除

出典 リン・ハント著（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、
二〇一九年

令和 7 年度学校推薦型選抜最終選考小論文課題

東京大学教養学部学際科学科

受験番号 _____ 氏名 _____

本冊子は、指示があるまで開かないこと。

課題開始後、表紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。

解答用紙は、両面 1 枚のみとする。

本冊子は、終了後に回収する。持ち帰らないこと。

本冊子

表紙 1 枚

白紙 1 枚

課題 5 枚

草稿用紙 2 枚（冊子に草稿用紙を綴じこみ）

東京大学教養学部

白紙

小論文課題

以下の文章を読み、問題に答えなさい。

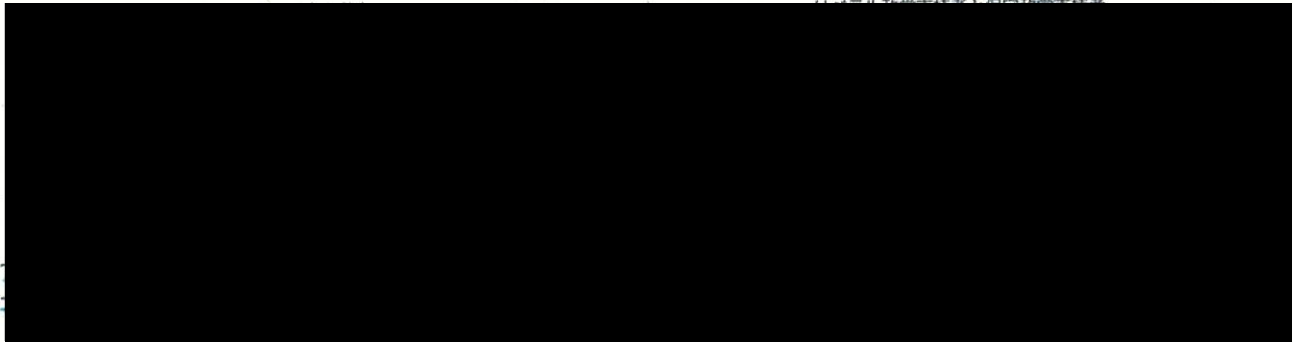
インターネットの利用は世論を二極化するのか

メディアとしてのインターネットを振り返ると、ポータルサイトのように情報を一つの場所に集める「集約化」、ブログ・SNSのように誰もが情報の発信者となり利用者となる「双方向化」を経て、一人ひとりにカスタマイズされた情報が取得できる「最適化」に進んできたとの指摘⁴がある。

インターネットは、基本的にあらゆる人が情報や知識を共有可能とする仕組みであり、暮らしやビジネスにおいて世界規模で利用が拡大した理由の一つは、このようなポジティブな側面であったと考えられる。他方、「最適化」が進む中で、インターネットの利用が世論を二極化し、社会の分断を招いているのではないかという議論が出てきている。二極化（分極化）とは、例えば国民の政治傾向が保守とリベラルのどちらかに偏り、中庸が少なくなることである。

本項では、この点についての議論の状況について整理する。

図表 1-4-2-1 分極化のイメージ



(出典) 田中辰雄 (2018) ワークショップ「ネットは社会を分断するのか」資料を基に作成

(1) インターネット上での情報流通の特徴と言われているもの

米国の法学者サンスティーン (2001)⁵はネット上の情報収集において、インターネットの持つ、同じ思考や主義を持つ者同士をつなげやすいという特徴から、「集団極性化」を引き起こしやすくなる「サイバークスケード」という現象があると指摘した。

集団極性化とは、例えば集団で討議を行うと討議後に人々の意見が特定方向に先鋭化するような事象を指す。討議の場には自分と異なる意見の人がいるはずなので、討議することで自分とは反対の意見も取り入れられるだろうと思われるが、実際に実験を行ってみると逆に先鋭化する例が多くみられた⁶。

「カスケード」とは、階段状に水が流れ落ちていく滝のことであり、人々がインターネット上のある一つの意見に流されていき、それが最終的には大きな流れとなることを「サイバークスケード」と称している。

こうしたもともとある人間の傾向とネットメディアの特性の相互作用による現象と言われているものとして、「エコーチェンバー」と「フィルターバブル」が挙げられる⁷。

ア エコーチェンバー

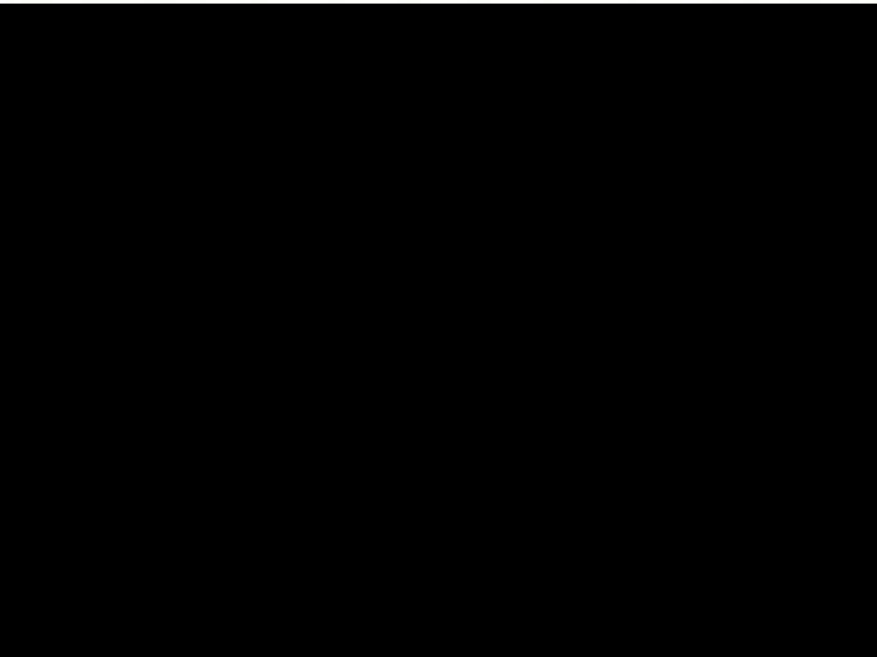
「エコーチェンバー」とは、ソーシャルメディアを利用する際、自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果、意見を SNS で発信すると自分と似た意見が返ってくるという状況を、閉じた小部屋で音が反響する物理現象にたとえたものである⁸。

サンスティーン (2001)⁹は、集団分極化はインターネット上で発生しており、インターネットには個人や集団が様々な選択をする際に、多くの人々を自作のエコーチェンバーに閉じ込めてしまうシステムが存在するとしただけ

で、過激な意見に繰り返し触れる一方で、多数の人が同じ意見を支持していると聞かされれば、信じ込む人が出てくると指摘した。

また、サンスティーンは無作為に選んだ60の政治系ウェブサイトを対象に、各ウェブサイトのリンク先を調査した。その結果、反対意見へのリンクは2割に満たない一方で、同意見へのリンクは約6割と高くなっていた（図表1-4-2-2）。さらに、反対意見へリンクがある場合でも、「相手の見方がいかに危険で、愚かで、卑劣であるかを明らかにするのが目的」としていた。そのうえでグループで議論をすれば、メンバーはもともとの方向の延長線上にある極端な立場へとシフトする可能性が大きいと指摘している。

図表 1-4-2-2 政治系ウェブサイトのリンク先の政治的志向



（出典）キャス・サンスティーン（2001）『インターネットは民主主義の敵か』を基に作成

イ フィルターバブル

「フィルターバブル」とは、アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境を指す。

米国のインターネット活動家であり、バイラルメディア¹⁰“Upworthy”の最高経営責任者でもあるバリサー（2012）¹¹は、フィルターバブルの登場により、新たな3つの問題が生じてきたと指摘する。

第一に、ひとりずつ孤立するという問題である。例えば、テレビの専門チャンネルでごく狭い分野を取り扱うものを見る場合でも、自分と同じ価値観や考え方を持つ人が他にも見ているが、インターネットにおけるフィルターバブルの中には自分しかいない。これにより、「情報の共有が体験の共有を生む時代において、フィルターバブルは我々を引き裂く遠心力となる」としている。

第二に、フィルターバブルは目に見えないという問題である。テレビを見る際には自分が何を見るかを選択している限り、なぜその番組が選ばれたのか理解しているが、パーソナライズされた検索エンジンによって表示された結果は、なぜそれが選ばれたのかその根拠が明確に示されることはない。フィルターバブルの内側にいると、表示された情報がどれほど偏向しているのか、または情報が偏向のない客観的真相であるのかが分からないことになる。

最後に、フィルターバブルの内側にいることをユーザー自身が選んだわけではないという問題である。テレビや新聞、雑誌を視聴する際、どのようなフィルターを通して世界を見るのかをユーザーは自ら能動的に選んでいる。しかしパーソナライズされたフィルターの場合、自ら選択してフィルターを使用しているのではなく、避けようにも避けるににくい状態になっていると指摘している。

広告主にとっては、ユーザーごとにパーソナライズするアルゴリズムを用いることは、顧客獲得コストを低下させる効果的な広告戦略であり、また利用者にとっても自分の好みの情報が少ないエネルギーで手に入るという利点がある。一方で、パーソナライズされたフィルターバブルにより、自分の関心とは異なる情報に触れにくくなり、他の意見が存在することに気づけなくさせる可能性をもたらすとされている。

(2) インターネットによる世論の二極化についての定量的な研究結果

ここでは、定量的な研究結果を基に、ネットの利用が世論の二極化にどの程度影響しているのか概観する。

米国では過去 10 年の間で二極化が進んだことを示す研究結果が出ているが¹²、我が国での実証研究例は少なく、二極化していると断定することはできない。しかしながら、世の中の言論が極端になってきていると感じている人は 3 割近く存在するという研究結果も存在する（図表 1-4-2-3）。

図表 1-4-2-3 世の中の言論は、中庸がなくなり、右寄りか左寄りか、極端になってきている

（出典）田中辰雄、浜屋敏（2017）「結びつくことの予期せざる罫ーネットは世論を分断するのか？」富士通総研研究レポート No.448

インターネットによって、情報の選択的接触は、マスメディアの時代よりもはるかに容易になっているとの指摘もある¹³が、以下取り上げる複数の定量的な調査結果からは、インターネット自体が分極化を進展させているのかどうかは引き続き議論の余地があるものと考えられる。

辻・北村（2018）による研究結果ーネットの利用により両極端な意見を持つ人々がそれぞれ増える可能性

辻・北村（2018）¹⁴は、「ネット利用が排外意識を強めるのか、それとも、排外意識がネット利用をうながすのか。あるいはまた、両者がたがいにたがいを強めあう関係（双方向の因果）にある」のかを定量データを用いて分析した。それによると、インターネットを利用することにより両極端な意見をもつ人々がそれぞれに増える可能性を示唆することが示され、反対に排外意識／反排外意識がネット利用量に影響する因果は確認されなかった。

同研究においては、排外意識を持つ人々だけでなく、反排外意識を持つ人々も増加することで、「社会全体が一様に排外主義化していく結果にはなりにくいだろう」としたうえで、「両極端な意見をもつ人びとがそれぞれに増えることによって、（中略）外交関係等についての世論が二極化し、社会的な対立・分断が深刻化していく」と懸念している。

一方で、他の有識者からは、そもそも我が国では、若年層を中心に多くの者が政治的に無関心、又は無関心を装うため、政治的言論空間への参加者や SNS 上での政治的議論が限られるとの指摘¹⁵、また、少数の両極端な意見が目立つとの指摘¹⁶もある。

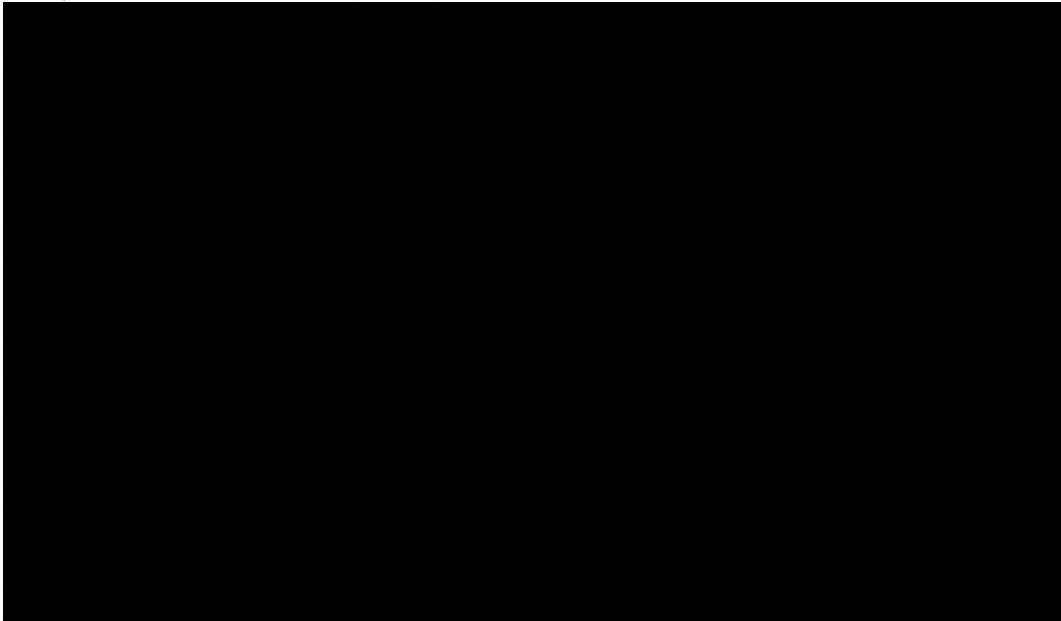
田中・浜屋（2018）による研究結果ーネットメディアはむしろ人々を穏健化させる

田中・浜屋（2018）¹⁷は、同じ対象者のグループに時期を離して 2 回の調査を行い、それによりインターネットの利用が社会の分極化に影響するのか明らかにしようとした。1 回目の調査では、前述の二極化を助長するとした調査結果と同様に「ネット利用する人ほど過激な傾向があることがわかった」とした。しかし「元々政治的に過激な人が

ネット利用にも熱心だからかもしれない」という因果までは不明とし、それを確認するための2回目の調査を実施している。

その結果、メディアの継続利用者について見ると、全体としてメディアの継続利用による政治傾向の変化は軽微であった（図表1-4-2-4）。仮に影響があるとしてもネットメディア利用の場合、Facebookを除いて影響の方向はマイナスであり、分極化の強化ではなく弱化している傾向が見られる。すなわち、ネット利用が分極化を進めている証拠は乏しく、むしろネットメディアの利用者はどちらかといえば穏健化していると結論付けている。

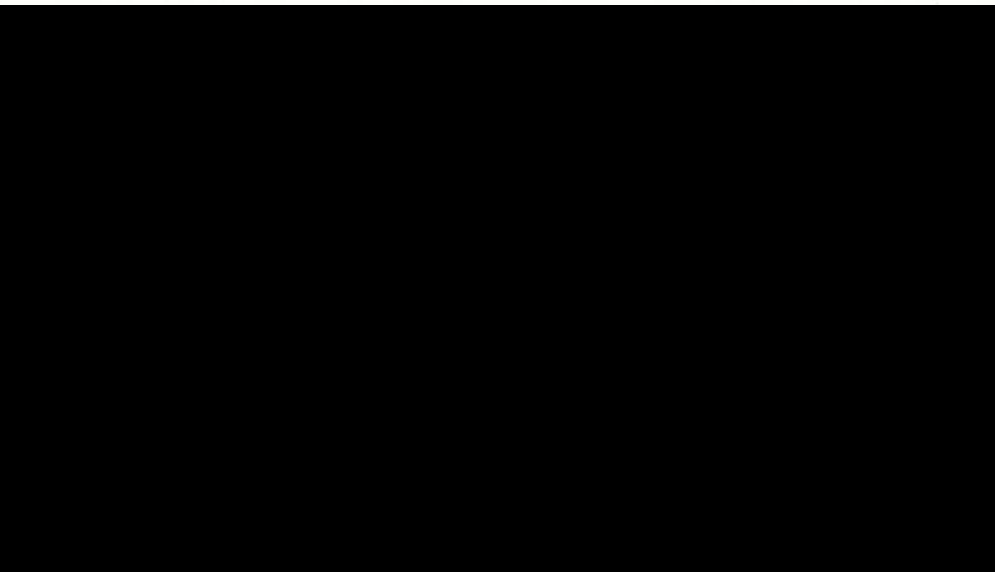
図表 1-4-2-4 メディア継続利用による分極化度合いの変化



（出典）田中辰雄、浜屋敏（2018）「ネットは社会を分断するのかーパネルデータからの考察ー」富士通総研 2018 年 8 月研究レポート No.462

また、1 回目の調査においては、ソーシャルメディアの利用は意見の過激化と有意な正の相関はあるものの、過激度に最も大きな影響を与えているのは「回答者の年齢」であり、年齢が高いほど過激な意見を持つ傾向があることが明らかになった。（図表 1-4-2-5）

図表 1-4-2-5 年齢別分極化指数



（出典）田中辰雄、浜屋敏（2017）「結びつくことの予期せざる罠ーネットは世論を分断するのか？ー」富士通総研 2017 年 10 月 研究レポート No.448

これらの結果により、「もしネット利用が分極化を促進するならネット利用に熱心な若年層でこそ分極化が生じているはずであるが、そうはなっていない。むしろネット利用が相対的に少ない中高年でこそ分極化が起きている。この事実がネット利用が分極化を促進するという仮説に疑問を抱かせる」とし、社会が分極化しているとしたら、ネット利用以外の要因が存在するはずであるとしている。

-
- 4 電通総研 (2016) 『情報メディア白書 2016』
 - 5 キャス・サンスティーン (2001) 『インターネットは民主主義の敵か』
 - 6 総務省 (2019) 「デジタル化による生活・働き方への影響に関する調査研究」有識者ヒアリング (慶應義塾大学 経済学部 田中辰雄教授) に基づく。
 - 7 笹原和俊 (2018) 『フェイクニュースを科学する』
 - 8 笹原和俊 (2018) 『フェイクニュースを科学する』
 - 9 キャス・サンスティーン (2001) 『インターネット上は民主主義の敵か』
 - 10 バイラル (Viral) とは英語で「ウイルス性の」という意味で、SNS による情報拡散力を利用してウイルスのように拡散することを目的とした動画や画像を中心としたブログなどのメディアのこと
 - 11 イーライ・パリサー (2012) 『閉じこもるインターネット グーグル・パーソナライズ・民主主義』
 - 12 Pew Research Center (2014) "Political Polarization in the American Public: How Increasing Ideological Uniformity and Partisan Antipathy Affect Politics, Compromise and Everyday Life"
 - 13 辻大介、北村智 (2018) 「インターネットでのニュース接触と排外主義的態度の極性化」情報通信学会誌 Vol.36 No.2
 - 14 辻大介 (2018) 「インターネット利用は人びとの排外意識を高めるか」ソシオロジ 第 63 巻 1 号
 - 15 総務省 (2019) 「デジタル化による生活・働き方への影響に関する調査研究」有識者ヒアリング (東京大学大学院情報学環 橋元良明教授) に基づく。
 - 16 総務省 (2019) 「デジタル化による生活・働き方への影響に関する調査研究」有識者ヒアリング (学習院大学法学部 遠藤薫教授) に基づく
 - 17 田中辰雄、浜屋敏 (2018) 「ネットは社会を分断するのかーパネルデータからの考察ー」富士通総研 2018 年 8 月研究レポート No.462

出典：総務省 令和元年版 情報通信白書（一部改変）

問題

- (1) エコーチェンバー及びフィルターバブルについて、それぞれ例を挙げて説明しなさい。
- (2) インターネットの利用は世論を二極化するのか、本文を踏まえて論じなさい。
- (3) インターネットと世論の関係において、社会、個人、技術はどうあるべきか、あなたの意見を述べなさい。

以上

草稿用紙

[illegible]

令和7年度学校推薦型選抜最終選考小論文課題

東京大学教養学部統合自然科学科

受験番号 _____ 氏名 _____

本冊子は、指示があるまで開かないこと。

課題開始後、表紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。

解答用紙は、両面2枚のみとする。

本冊子は、終了後に回収する。持ち帰らないこと。

本冊子

表紙 1 枚
白紙 1 枚
課題 2 枚
草稿用紙 4 枚

東京大学教養学部

小論文課題

以下の設問すべてに答えなさい。

必要に応じて自筆の図を用いてもよいものとする。

第1問

次の文章を読み、以下の(1)～(5)の問いすべてに答えよ。

生命科学における重要な貢献をした研究に対して、これまでに数多くのノーベル生理学・医学賞やノーベル化学賞が授与されてきた。それらの優れた研究成果は現代の生命科学における基礎となり、高校における生物学の教科書に書かれているものも多い。

ノーベル生理学・医学賞は、例えば、抗体の多様性に関する遺伝的原理を発見した利根川進博士(1987 年)、①*iPS 細胞*を開発した山中伸弥博士(2012 年)、感染症に対する治療法を発見した大村智博士(2015 年)、②*オートファジー*のしくみを解明した大隅良典博士(2016 年)、③*免疫*チェックポイント阻害によるがん治療法を発見した本庶佑博士(2018 年)が受賞している(括弧内は受賞した年)。

ノーベル化学賞は生化学分野の優れた研究に対しても授与されており、生命科学実験でよく用いられる④*緑色蛍光タンパク質(GFP)*を発見した下村脩博士(2008 年)が受賞している。また、遺伝子組換え実験で使われる⑤*PCR 法*の発明(1993 年)や⑥*ゲノム編集*手法の開発(2020 年)、さらには⑦*タンパク質*の合理的設計法と立体構造予測プログラムの開発(2024 年)にもノーベル化学賞が授与されている。

- (1) 下線部①と②について、それぞれ 80 字程度で説明せよ。
- (2) 下線部③に関連して、自然免疫と獲得免疫についてそれぞれ 80 字程度で説明せよ。
- (3) 下線部④は、生命科学研究においてどのように使われているのかを 80 字程度で説明せよ。
- (4) 下線部⑤と⑥について、それぞれ 80 字程度で説明せよ。
- (5) 下線部⑦の機能について、80 字程度で説明せよ。

(次のページに続く)

第 2 問

第 1 問にも記されているように、ここ数十年の生命科学の進歩は目覚ましく、遺伝子組換え実験技術の開発、ヒトゲノムの解読、タンパク質の構造解析や予測法の開発、さまざまなウイルスの発見、疾患の治療法の開発、免疫やシグナル伝達に関する発見など、数多くの優れた研究がなされ、それらの中にはノーベル賞が授与されたものも多い。ノーベル賞を受賞した研究は、一見すると完成した研究のように見えるが、実は、ノーベル賞研究の延長上に次のノーベル賞があると言われている。例えば、小柴昌俊博士（2002 年ノーベル物理学賞）が開拓したニュートリノ天文学の延長上に、梶田隆章博士（2015 年ノーベル物理学賞）のニュートリノ振動の発見があった。このように、科学が進歩した現代であっても、未解明の重要課題は次々と誕生してくるのである。

さて、あなたは大学に入学するにあたり心機一転、これまで自分が行ってきた研究とは異なる新たな生命科学研究に取り組むことにしたとする。あなたが所属する研究環境には、多様性を重んじる自由な雰囲気満ちあふれており、生物学だけでなく、物理学、化学、情報科学、数学、工学、医学、薬学、農学、心理学、スポーツ科学、さらには人文科学や社会科学などの多様な分野の研究者が身近にいて、分野融合的な学際研究をすぐにでも始められる状況にあるとする。創造とは組み合わせであるという言葉もあり、多様な研究対象や多様な研究アプローチを融合させることによって、新たな研究を創出できるだろう。そこであなたは、この環境を最大限に活かしながら、生命科学におけるチャレンジングな重要課題に取り組んでみたいと考えたとする。次の問いに答えよ。

(1) 生命科学におけるチャレンジングな重要課題のうち、あなたがぜひ取り組んでみたいと考える課題を一つ選び、その課題の内容を具体的に説明せよ。また、なぜその課題が重要だと思ったのかを述べよ。

(2) その課題を解くためにはどのような研究が必要となるのかを考え、研究のプランを具体的に説明せよ。また、その課題を解くにあたって、分野融合的なアプローチで研究を進めることによって初めて可能になることがあれば記載せよ。

以上

東京大学教養学部

草稿用紙

20

草稿用紙

20

草稿用紙

草稿用紙

令和 7 年度学校推薦型選抜最終選考小論文課題

東京大学教養学部 国際日本研究コース

受験番号 _____ 氏名 _____

本冊子は、指示があるまで開かないこと。

課題開始後、表紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。

解答用紙は、両面 2 枚のみとする。

本冊子は、終了後に回収する。持ち帰らないこと。

本冊子

表紙 1 枚

白紙 1 枚

課題 1 枚

草稿用紙 2 枚（冊子に草稿用紙を綴じこみ）

東京大学教養学部

白紙

小論文課題

Essay Question

Write your responses to the following two questions in English. For each response, begin with the corresponding question number (e.g., "1." or "2.") to indicate which question you are addressing.

1. What does it mean to include "experience" as a criterion in university entrance examinations? Discuss both the advantages and disadvantages, and share your own perspective.
2. The region referred to as "East Asia" is far from homogeneous, yet many people continue to use this category. Do you consider "East Asia" a meaningful concept? What does "East Asia" mean to you?

以上

東京大学教養学部

[illegible]

- 4 -

令和 7 年度学校推薦型選抜最終選考小論文課題

東京大学教養学部 国際環境学コース

受験番号 _____ 氏名 _____

本冊子は、指示があるまで開かないこと。

課題開始後、表紙に受験番号、氏名を必ず記入すること。

解答用紙は、両面 2 枚のみとする。

草稿用紙として、B4 用紙 2 枚を使用してよい。

本冊子，解答用紙，草稿用紙は、終了後に回収する。持ち帰らないこと。

本冊子

表紙 1 枚

白紙 1 枚

課題 1 枚

白紙

小論文課題

(Essay questions)

Write your answers in English.

Question 1: What environmental issue has had the greatest impact on your own life? Explain.

Question 2: What is the difference between science and other forms of human inquiry (e.g., the Humanities)?